

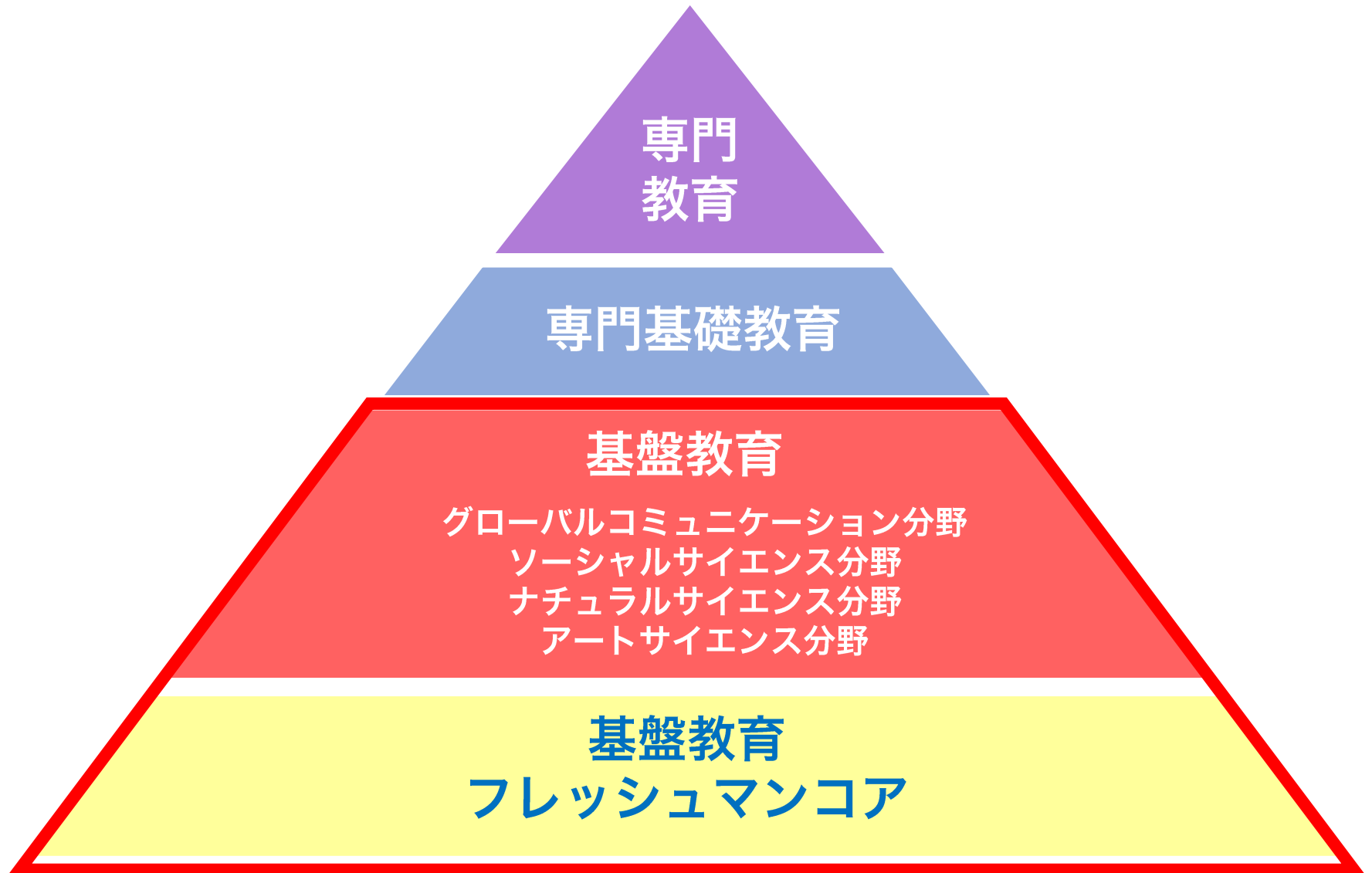


2021宮城大学アカデミックインターンシップ
基盤教育群プログラム

地図は街の履歴書



講義の前に～基盤教育群の紹介



今日の問題意識

【概要】より

現在の街並みを対象に、建築物の場所や道路を描き込んだ**道路地図**。コンビニでも手に入る現代の生活用品の一つですが、ちょっとだけ**見方を変え**ると自分が住む街の歴史がぎっしり詰まった**歴史の資料**にもなります。仙台市街地を素材にした**道路地図の色分け**を通じて「見方の変え方」に触れながら、「**学ぶこと**」に**必要な意識**について考えてみたいと思います。

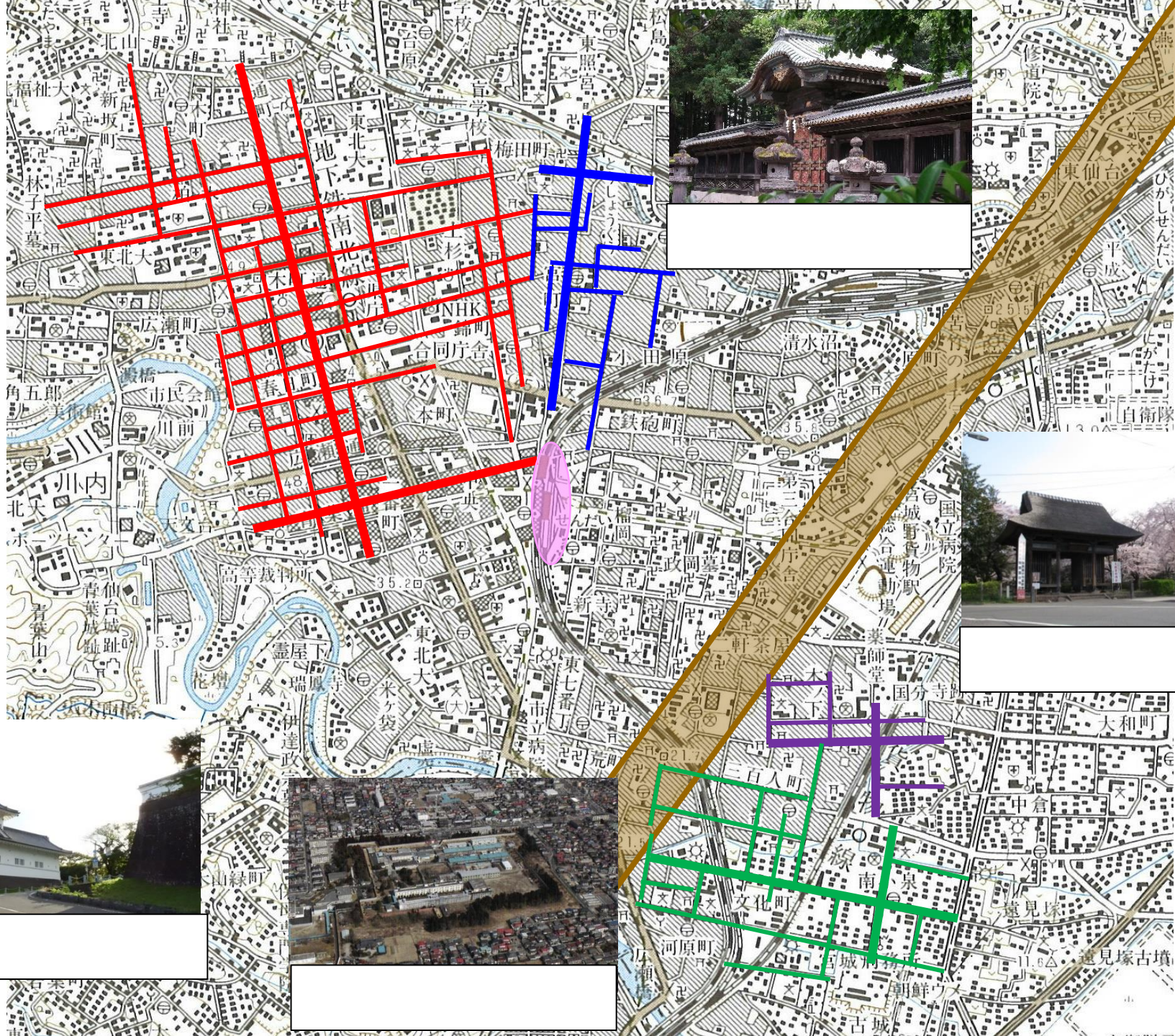
◆ 現代の道路地図から仙台の歴史を探れるの？

- ・「日本史」とは異なる「日本史」との出会い。
- ・現代を対象とした道具から「歴史」を探る。

「知りたい！（なぜ？）」という思いの大切さ

して欲しいこと

- ① 地図への色塗りを真似てみる。
- ② 感じたこと(学びの意識でも、仙台のことでも)を述べる。



まとめ～仙台の歩み／学びの意識

仙台の街の成り立ち

- ①断層の東を中心にした古代の人々
- ②断層の西に新しい街を作った伊達政宗
- ③断層東の旧市街に進出した伊達政宗
- ④新たに「神君」の街を作った伊達忠宗

これが現代の地図に示されている

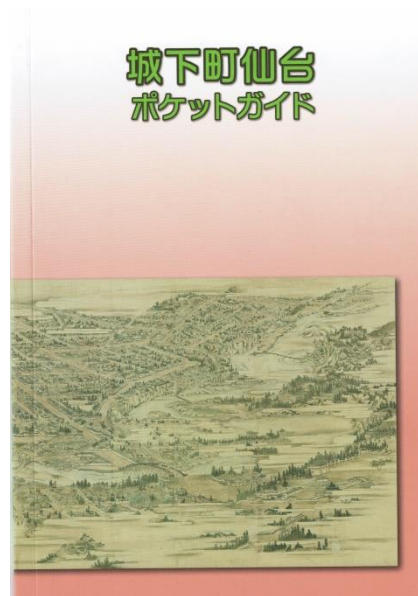
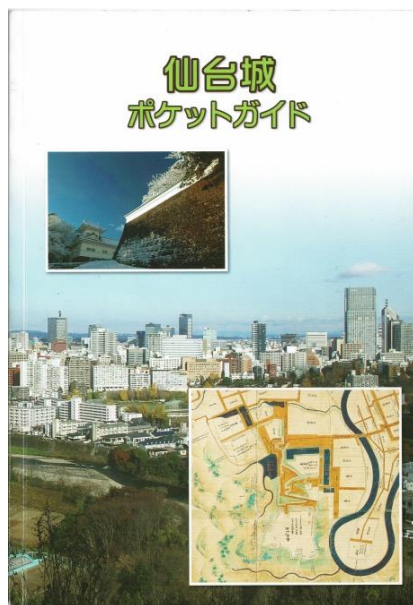
歴史の勉強として

- 「日本」以外が主人公の歴史
 - ・暗記のみではない歴史
 - … 現在の環境への疑問
地図を片手に街歩き
- ・同じ土地を生きた人との対話
- … 積み重ねの上に生きる私達
これを「日本」に拡大すると？

■「学びの意識」に即すると…？

- ・ 教えられ、知ったことへの「そうなのかぁ」という納得
- ・ 知り、気になったことへの「なぜだろう？」という発問
- ・ 自らの発問に対し「自ら追求しようとする意志」

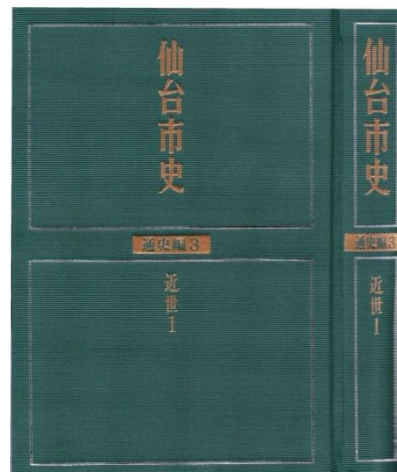
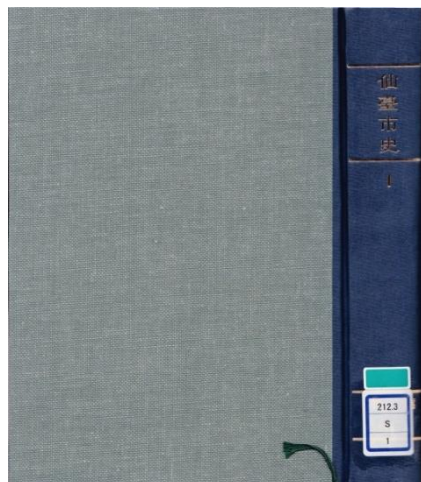
文献案内：仙台の街の歴史の入門書



○携帯可能な入門書

仙台城・仙台城下町のガイドブック。
『仙台城』は携帯して登城することを想定したつくり。『城下町仙台』は街の成り立ちのほか、城下での暮らしや風景・行事なども扱っていて、当時の暮らしが簡易に立体的に把握できる（はず）。

※仙台市博物館で入手可能。



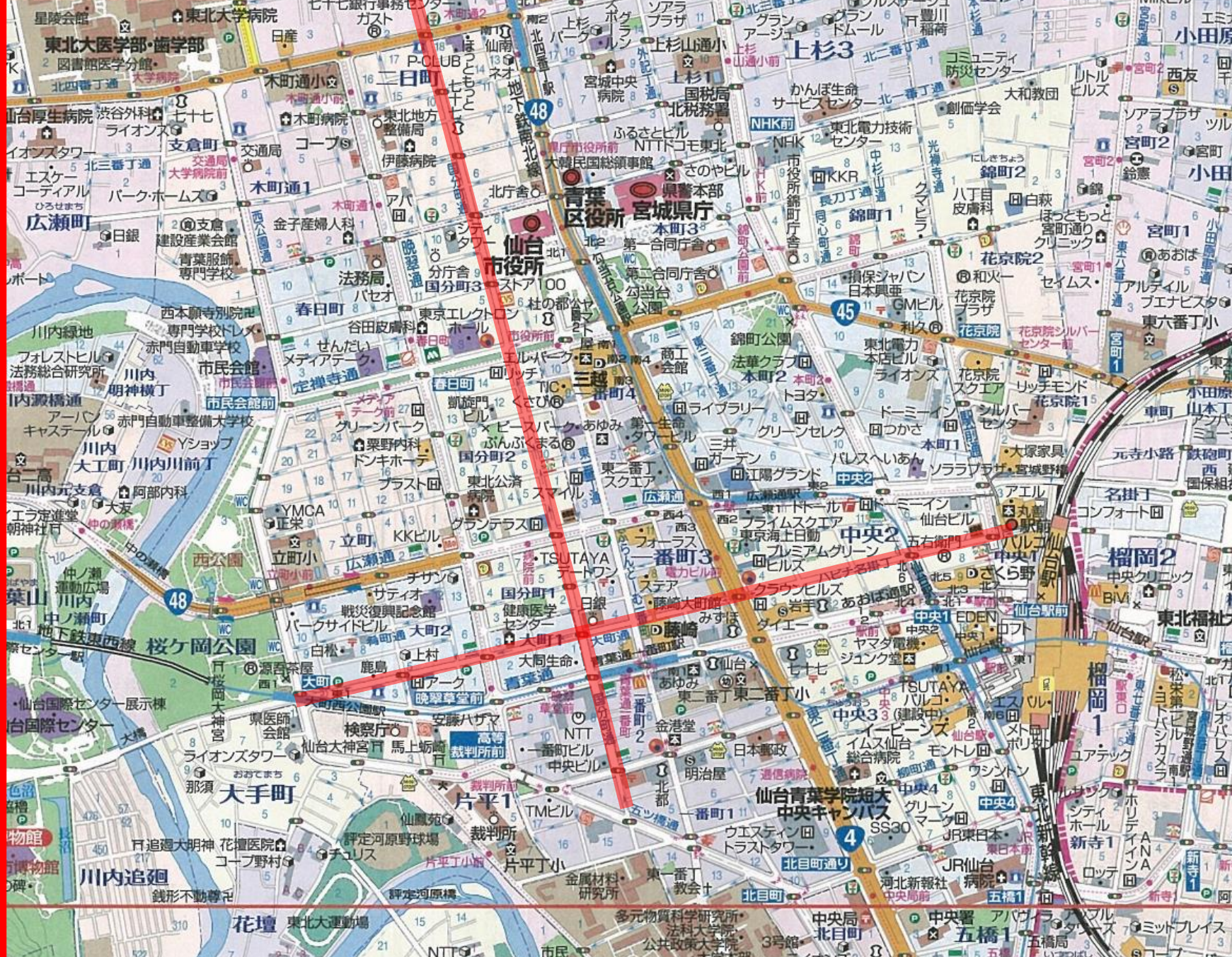
○「少し専門的に」な入門書

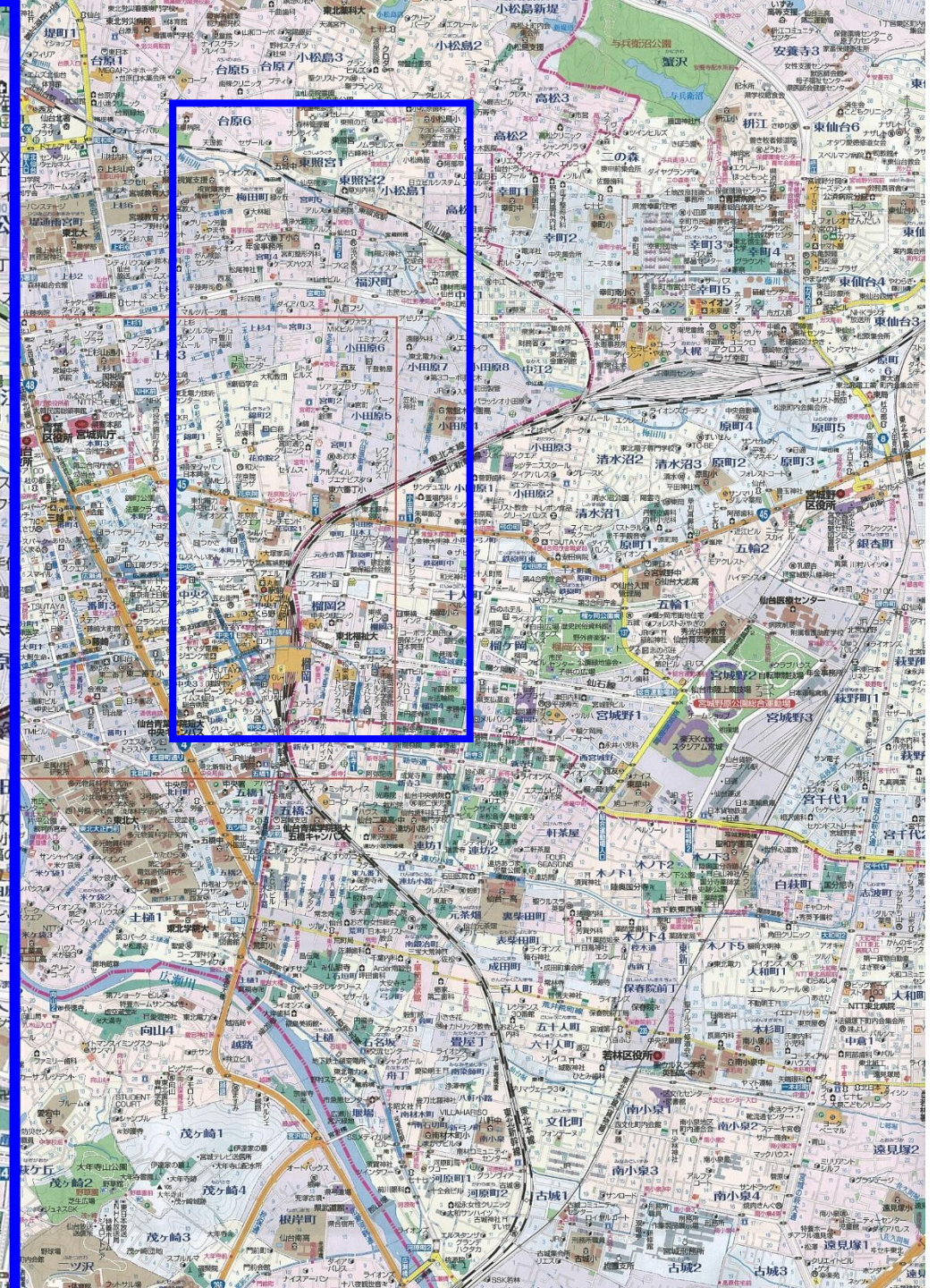
左は昭和20年代の『仙臺市史』で、右は平成の『仙台市史』。最新成果は『仙台市史』で把握できるが、情報が3冊の近世編に散りばめられ全体の把握がちょっと難しい。歴史の骨格だけの把握なら『仙臺市史』がお勧めだけど、それでも約400頁の読破が必要。

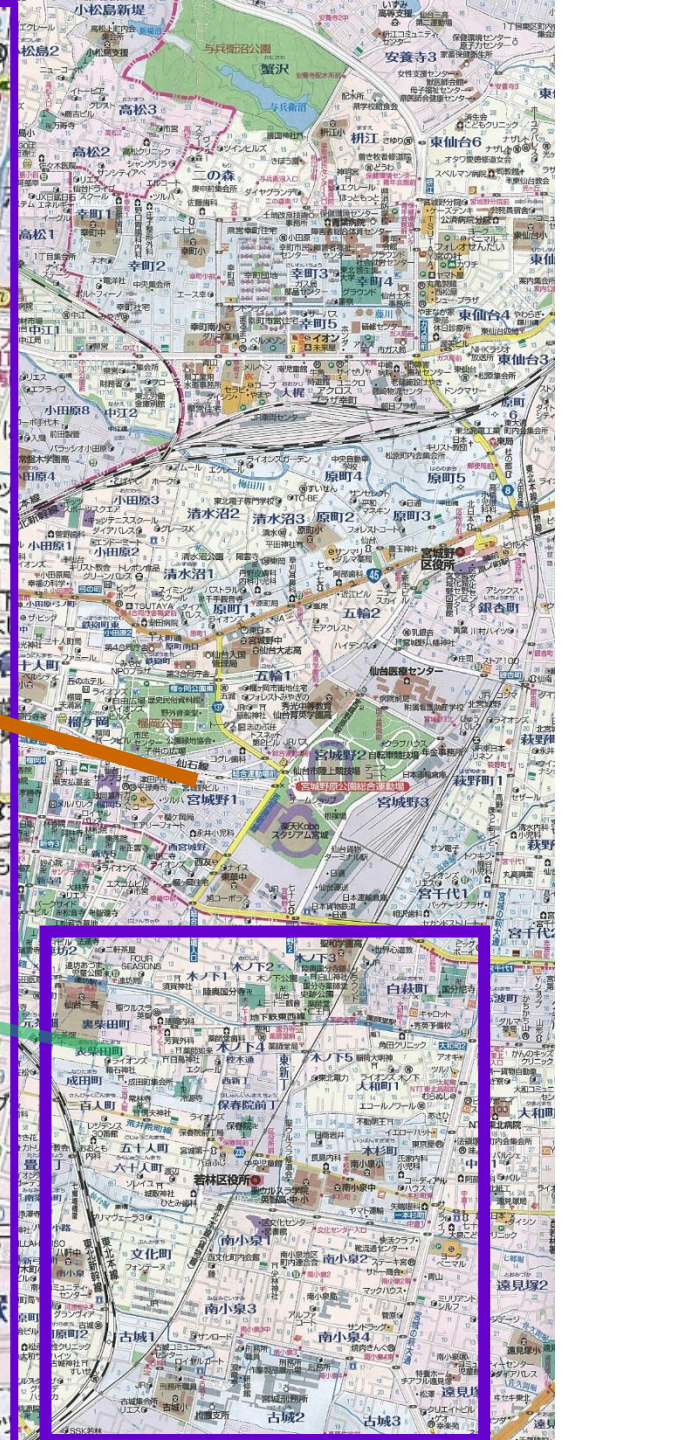
※いずれも仙台市の図書館にあり。

以下 3 枚は補助動画用の資料です

「仙台中心図」の範囲







おまけ動画用の資料です

西

七北田丘陵

泉区

北



台ノ原

青葉区

青葉山



下町

中町

町

段

丘

梅田川

宮城野区



利



若林区

太白区

大年寺山

広

瀬

川

取

川

名

東

南

